

記念講演

『地域・人権・ふつうの生活』

講師：浅野 史郎 氏

9月24日(日)10:30-12:00 ロイトン札幌

○浅野史郎さんのプロフィール



かながわだいがくとくべつしょうへいきょうじゆ ぜんみやぎけん ちじ
神奈川県特別招聘教授、前宮城県知事。

ねん がつ にちう せんだいししゆっしん とうきょうだいがくほうがくぶ
1948年2月8日生まれ。仙台市出身。東京大学法学部
そつぎょうご こうせいしょう げんこうせいろどうしやう にゆうしやう じどうかていきよくしやうがい
卒業後、厚生省(現厚生労働省)入省。児童家庭局障害
ふくしかちやう しゃかいきよくせいかつかちやう せいかつせいせいきよくきかくかちやう
福祉課長、社会局生活課長、生活衛生局企画課長などを
れきにん ねん がつみやぎけん ちじ とうせん ねん がつ
歴任。1993年11月宮城県知事に当選。2005年11月まで、
3期12年務める。2006年4月慶応大学総合政策学部教授。
ねん がつ せいじん さいほうはくつびやう ほっしやう だいがく
2009年5月ATL(成人T細胞白血病)を発症し、大学を
きゆうしよく ご こつすいしよく う びやうき かいふく
休職。その後、骨髄移植を受け、病気から回復し、2011

ねん がつせいおうだいがく ふつき ねん がつせいおうだいがく ていねんだいしよく ねん がつ げんしよく
年5月慶応大学に復帰。2013年3月慶応大学を定年退職、2013年4月から現職。

○解説

あさのしろう こうせいろどうしやう ほっかいどうちやう しゅつこう つ じゅうたく
浅野史郎さんは、厚生労働省から北海道庁に出向したとき、「ケア付き住宅」
をはじめ、北海道の障害福祉を発展させた方です。浅野さんは北海道時代のことを
つぎ かた
次のように語っておられます。

わたし かんがえ か ふくしかちやう ほっかいどうちやう ふにん しせつ たすねて
「私の考えが変わったのは、福祉課長として北海道庁に赴任し、施設を訪ねて
はなし き まわ じゅうど しやうがいしや きゆう
話を聞いて回ってからです。どんなに重度の障害者でも、昨日できなかったこと
きょう しんぼ い よ
が今日できるようになることがある。そんな進歩があれば、生きていて良かったと
おも
思う。その積み重ねが生きていくということなんだ

と。」(注)その後、「普通の生活は地域の中にある」—
かくしん もと あさの こうせいしょう しやうがいふくしかちやう
という確信の下に浅野さんが、厚生省の障害福祉課長
とき はじ しやうにんすう いっしよく く
の時に始めたのが、少人数で一緒に暮らすグループホ
ーム(GH)制度でした。そして、さらに、93年から



きつと みやぎけん ちじ だいきほしせつ にゆうしや ちてきしやうがいしや ちいきいこう
3期務めた宮城県知事時代には、大規模施設に入所する知的障害者の地域移行を
ぜんこく さきが ねん しこう しやうがいしやじりつしえんほう
全国に先駆けてすすめられました。2006年に施行された障害者自立支援法では
ちいきせいかつしえん めいかく しせつ ちいき ながれ おお ぜんしん
地域生活支援が明確にうたわれ、「施設から地域へ」という流れは大きく前進してい
ますが、課題もたくさんあります。「地域での生活、偏見なくす」—浅野さんの
かだい ちいき せいかつ へんけん あさの
ご講演に期待します。

ちゆう いんやう こうろん しやうがい ならさきまゆみ あさのしろう あまみやかりん
(注)引用：「[耕論] 障害があったとしても」(奈良崎真弓さん、浅野史郎さん、雨宮処凛さん—
あさひしんぶん しやかい ねん がつ ち
朝日新聞デジタル社会オピニオン：2016年8月26日)

とくべつぶんかかい ごうりてきはいりよ りかいけいはつ たい ぜんこく
特別分科会 “合理的配慮”理解啓発キャラバン隊 全国サミット

知的・発達障害に関する理解を広めよう！

ぜんこく けいはつかつどう たい いかつどう まな
～全国の啓発活動(キャラバン隊活動)から学ぶ～

が につ ど どうみんかつどう
9月23日(土) 10:30-16:00 道民活動センターかでの2・7

しゅし
(趣旨)

こくれん さいたく しょうがいしゃけんりじょうやく こくないほう しょうがいしゃきほんほう しょうがいしゃ
国連で採択された「障害者権利条約」や、国内法である「障害者基本法」「障害者
さべつかいしょうほう ちいき ほうせつ きょうせいしゃかい よ かんが かた
差別解消法」などでは、地域における包摂、あるいは共生社会と呼ばれる考え方を
ていじ しょうがい う む かか たが じんかく こせい そんちよう
提示しています。これは、障害の有無に関わらず、お互いの人格や個性を尊重して
とも い ちいき め ざ かんが かた しょうがい とくせい
に生きることができると地域を目指す考え方であり、そのためには障害の特性に
おう はいりよ ごうりてきはいりよ じゅうよう
応じた配慮(合理的配慮)が重要であるとしています。

しかし、合理的配慮の重要性は徐々に広がりつつあるものの、知的・発達障害の
ひと がいけんじょう しょうがいとくせい わか ちいき りかい じゅうぶん
ある人は外見上で障害特性が分かりにくいこともあり、地域における理解が十分
すす ひつよう はいりよ え しょうきよう
に進んでいるといいがたく、必要な配慮も得られにくい状況にあります。

こうした背景もあり、近年注目されているのが、地域における知的・発達障害へ
はいけい きんねんちゅうもく ちいき ちてき ほん しょうがい
の理解を広めるための啓発活動、いわゆる「キャラバン隊」などと呼ばれる活動です。
りかい ひろ けいはつかつどう たい よば かつどう
団体ごとに、障害特性を伝える座学だけではなく、知的・発達障害の疑似体験を
だんたい しょうがいとくせい つた ざがく ちてき ほん き じ たい けん
盛り込むなど、多面的に理解を深める工夫が凝らされています。

今回の全国大会では、「特別分科会」として、全国に活動が広がりつつある啓発活動
こんかい ぜんこくたいかい とくべつぶんかかい ぜんこく かつどう ひろ けいはつかつどう
を紹介するとともに、啓発活動の意義や必要性、実践のポイントや今後の課題などを
しょうがい けいはつかつどう い ぎ ひつようせい じっせん こんご かだい
一緒に考える機会をご用意しました。

ちてき ほん しょうがい ある ひと が 暮らしやすい ちいき つく かれ
知的・発達障害のある人が暮らしやすい地域を作っていくには、彼らのことを
し 知ら ら う こ ことが い り ぐ ち かく ち けいはつかつどう まな
知ってもらうことが入口です。各地の啓発活動から、学んでみませんか。

【コーディネーター】

て し へんしゅうい いん またむら し
『手をつなぐ』誌 編集委員 又村 あおい 氏

きちょうこうえん
【基調講演】

ほうじん あんど り じ べん ご し せきはじめ なおと し
NPO法人 PandA-J 理事 弁護士 関 哉 直人 氏

(けいはつたいじつえん)
【啓発隊実演】

ざまして いくせいかい ざ ま たい だいひょう し きしま あや し ちょうせいちゅう
座間市手をつなぐ育成会「座間キャラバン隊」代表 敷島 文 氏 (調整中)

はつげんしゃ
【シンポジウム・発言者】

① たつの市手をつなぐ育成会「ピース & ピース」代表 矢野 一隆 氏

② 市川手をつなぐ親の会「空」代表 村山 園 氏

③ 広島市手をつなぐ育成会「あび隊」代表 (副会長) 金子 麻由美 氏